

平成 27 年度第 2 回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録

開催日	平成27年 10 月 22 日(木)	時間	13 時 45 分 ～14 時 15 分	場所	市立伊丹病院 くすのき講堂
出席者	<p>委員： 竹中委員長(伊丹市医師会会長)、木村委員(三田市医師会会長)、黒田委員(尼崎市医師会会長)、森田委員代理として飯田委員(伊丹市歯科医師会副会長)、長江委員(兵庫県伊丹健康福祉事務所長)、柳田委員(伊丹市消防局長)、坂本委員(伊丹市健康福祉部長)、根津委員(川西市健康福祉部長)、岡野委員(学識経験者)、中田委員(伊丹市病院事業管理者)、平塚委員(市立伊丹病院長)、関委員(市立伊丹病院副院長)、大迫委員(市立伊丹病院看護部長)、米倉委員(市立伊丹病院事務局長)</p> <p>委任状： 末岡委員(宝塚市医師会会長)、藤末委員(川西市医師会会長)、安達委員(伊丹市薬剤師会会長)、川窪委員(宝塚市健康福祉部長)、岩越委員(三田市健康福祉部長)</p> <p>オブザーバー： 山本(市立伊丹病院副院長)、筒井(市立伊丹病院副院長)、三木(小児科主任部長)、萩原(放射線科主任部長)、太田(歯科口腔外科主任部長)、清田(医療技術部放射線担当技師長)、五十嵐(薬剤科長)</p>				
議題内容	<p>■ 開会のごあいさつ</p> <p>市立伊丹病院地域医療支援病院として救急医療に対する対応、施設共同利用に対する対応、地域療養患者に対する対応、地域紹介患者に対する推進についてみなさんの積極的なご意見を伺っていきたく思いますのでよろしく願いいたします。</p> <p>■ 委員紹介</p> <p>席次順に紹介 出席者過半数を超えているので本会は成立することを報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本委員会は「公開等および傍聴についての要綱」第 2 条ならびに第 3 条により傍聴による公開となっている。今回、当院ホームページにてご案内していたが傍聴希望者なし。 ・本委員会は議事録作成のため録音している。 <p>・会議録の記載内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.開催の日時および場所 2.出席した委員、臨時委員、専門医委員および関係人の氏名 3.議題およびその内容 4.議題の要旨 5.議決事項 6.その他委員長が必要と認める事項 <p>討議の中での発言内容、発言者の氏名は記載無し。</p> <p>第 18 条により 会議録は市立伊丹病院ホームページにて公開。</p> <p>■ 議事署名人の指名について(2 名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹中委員長より指名 長江委員、柳田委員に依頼したいとのこと。両者共に了承された。 <p>■ 議事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 紹介患者に対する医療提供について <ul style="list-style-type: none"> 資料 1-① 1-② 1-③ 1-④ 1-⑤に従って説明 平成 27 年度上半期地域医療支援病院の紹介率、逆紹介率承認要件を満たしている。 				

・資料 1-④ 地域医療連携室利用割合について、伊丹市の地域医療連携室の利用割合が 80%を超えている。伊丹市医師会としての当初目標が 80%であったため目標としては達成できているが、病院としては今後どのように考えているのか。

→ 地域医療連携室を通じて紹介申し込みいただくと、初診の予約調整を行うなど、よりスムーズに診療を行うことができるため 100%を目指している。今後も積極的に利用をお願いしたい。

・資料 1-① 逆紹介率が 100%を超えているがどのようになっているのか。

→ 表中にある新地域医療支援病院逆紹介率の計算式に当てはめるとこのような数値になる。100%を超えた考えにくい数値になるが間違いではない。

2) 救急医療の提供について

資料 2 に従って説明

・県立尼崎総合医療センターがオープンしたが影響はあるか。

→ 特に影響はない。総数については減少なし。

「むこねっと 2 次救急システム」の積極的受け入れを考えている。

・救急患者のお断りの率はどれくらいか

→ 受け入れが増加したからお断り件数が減少したというわけではない。比率的には変わらない。当院対象の患者の受け入れ体制を整備し、病床数も増やすことができれば満床でのお断りも緩和できると思っている。そのようなことも考えている。

3) 地域の医療従事者に対する研修について

資料 3 に従って説明

・院外の参加人数が少ない、特に昆陽池フォーラムメディコの参加者数が気になる。従来通りの PR 方法では行き詰まりがあるのでは。新しいやり方や広報の方法を考えているのか。

→ 適宜、広報、ご案内は行っている。皆様に多数ご参加いただける魅力ある内容の研修会を開催するよう工夫するなど努力して参りたい。

4) 開放病床の運用実績について

資料 4 に従って説明

前年度とほぼ同数の利用率で運用できている。利用率は低いが算定要件の 2 割以上は満たしている。

・開放病床は何床か → 5 床

・1 年にすると何人ぐらいの利用か → 34 名利用

外科 10 名、眼科 20 名、呼吸器内科 3 名、消化器内科 1 名

・利用率アップのためにも、伊丹病院出身で新規開業された医師からの利用を期待したい。

5) その他

○ 「むこねっと」について

・先日行われた、兵庫県医学会にて「むこねっと」を利用した症例の発表があった。

・救急搬送時に 4 回以上の問い合わせを要した割合が、当初 11% だったのが 3% を切る状況になった。

・アレルギーの有無、病名の公開が検討されているが、対応はできるのか。

→ アレルギーについては対応出来ると思うが、伊丹市はこのような事業を行う際、伊丹市

個人情報保護審査会に審査を諮問しているが、当初、病名に関しては審査に入っていなかったため病名を入れるとすれば審査が必要になる。

・将来、薬剤師、訪問看護師に公開する際、病名やアレルギーの有無が必要になると考えている。

■ 閉会のごあいさつ

本日はご多忙の中ご出席ありがとうございました。

伊丹市には「伊丹市健康づくり計画」が策定されております。伊丹市保健医療推進協議会が平成 23 年度から 5 年間の計画を決めたものです。28 年度から 5 年間の計画を作るための協議会が今年の 7 月に発足し、会長は伊丹市医師会の竹中会長がされています。協議会には健康づくり部会と地域医療部会の二つの部会があり、我々は地域医療部会の委員ですが、その所掌事項は医療連携体制の推進および救急医療体制の整備等に関する事項です。今月 29 日に第 1 回が開催されることになっており、市民のアンケート結果などをもとに協議が始まります。今年度までの計画には市立伊丹病院がすべき主な取り組みの一つに「市民の医療ニーズに的確に対応し」から始まる一文があるのですが、市民が市民病院に求めているものは、国の医療制度に則り我々が目指そうとしているものとは必ずしも同じではないようです。「気軽に受診できる診療所機能をあわせもった総合病院」と回答した割合が結構高い。地域完結型医療とはどういうことか、もっと正しく市民に理解してもらい、市民の医療ニーズと我々が目指すものが同じ方向を向くようにしなければならないと思っております。そうすることにより地域医療支援病院としてのさらなる機能充実が図られると考えておりますので今後ともご協力、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。本日はご出席いただきまして、本当にありがとうございました。

■ 謝辞

皆様ありがとうございました。検討いただき無事に終了いたしました。お礼申し上げます。県の医療審議会から、地域医療構想策定が少しずつですが、どうあるべきか進められつつあると考えております。阪神北圏域で市立伊丹病院は地域医療支援病院の立ち位置で医師会の先生方や行政のお力添えを得て病院運営を行いたいと思っております。

引き続き、皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

別紙のとおり「平成 27 年度第 2 回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録」として作成する。

作成者

平成 27 年 11 月 9 日

川中 善正



別紙のとおり「平成 27 年度第 2 回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録」として確認する。

議事録署名人 平成 27 年 11 月 13 日

柳田 善正



議事録署名人 平成 27 年 11 月 10 日

長江 利幸

